



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 4

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Full Course Special

ROAD STAR // ROAD STAR WARS //
NEO STANDARD < Ninja250R/YZF-R25 > , < CBR250R/VTR250/G310R >

7 Sat. September

イベント全体概要報告

■開催概要

- 大会名称 : 2019 FUN & RUN! 2-Wheels [4] Full Course Special
(MFJ承認競技会)
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース/東コース (2.243km)
三重県鈴鹿市稲生町7992
- 開催日 : 2019年9月7日(土)
- 天候 : 晴/路面:ドライ
- 開催クラス : ★総参加台数/155台
ROAD STAR CHALLENGER I...3台
ROAD STAR I...6台
ROAD STAR EXPERT I...9台
ROAD STAR II...6台
ROAD STAR EXPERT II...14台
ROAD STAR WARS I...32台
ROAD STAR WARS II...22台
NEO STANDARD (CBR250R) ...15台
NEO STANDARD (VTR250) ...4台
NEO STANDARD (G310R) ...10台
NEO STANDARD (Ninja250R) ...19台
NEO STANDARD (YZF-R25) ...15台

※本年度のFUN&RUN! 2-Wheelsは、この大会でシリーズを終了いたしました。
来年度の開催につきましては、別途あらためてご案内いたしますので、引き続きよろしくお願いたします。

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <http://www.battle.co.jp/>





2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 4

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Fall Course Special

ROAD STAR // ROAD STAR WARS //
NEO STANDARD < Ninja250R/YZF-R25 > < CBR250R/VTR250/G310R >

7 Sat. September

開催クラス紹介

[NEO STANDARD]

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダVTR250、ホンダCBR250R、YZF-R25の4車種に加え、さらに今年からBMW G310Rが使用できるようになりました。スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するの人気の理由。ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

●参加車両例 カワサキNinja250R ホンダVTR250 ホンダCBR250R ヤマハYZF-R25 BMW G310R

[ROAD STAR (CHALLENGER/EXPERT) I/II]

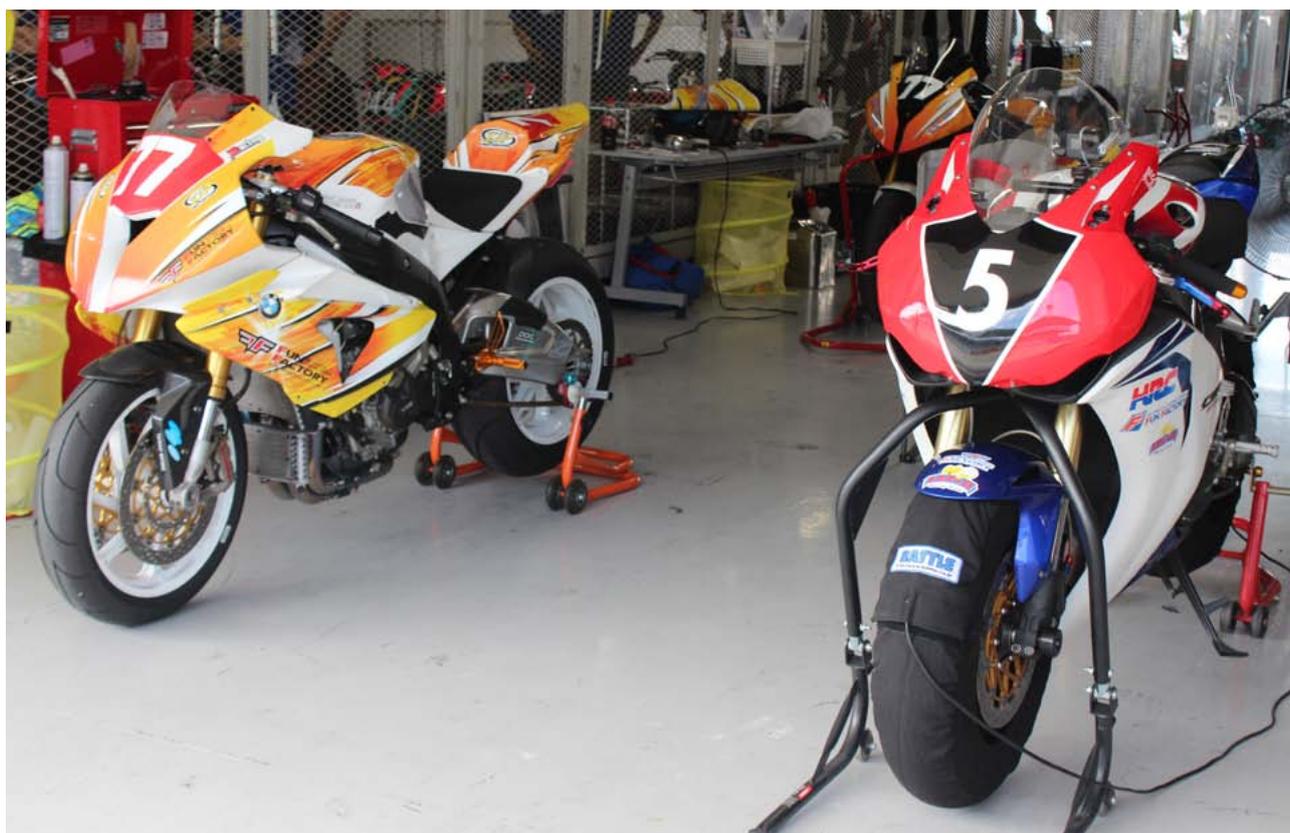
ROAD STAR WARS同様、一般公道走行が認められるナンバー付車両による競技です。ROAD STAR WARSとは違い、こちらは全て「タイムアタック形式」の競技となります。また、ライダーのスキルにより、入門者にはCHALLENGERクラスから、上級者にはEXPERTクラスまで幅広く参加できるクラスとなっています。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハ YZF-R1 トライアンフ デイトナ675 ビューエル XB9S スズキ TL1000S

[ROAD STAR WARS I/II]

一般公道走行が認められている、いわゆる「ナンバー付」車両による、レース形式競技がこのROAD STAR WARSです。「I」と「II」は車両の大きさの違いであり、2ストローク251cc/4ストローク401cc以上の車両がROAD STAR WARS I、2ストローク86cc~250cc/4ストローク100cc~750ccまでの車両がROAD STAR WARS IIとなります。現在、FUN&RUNで最も人気のあるクラスの内の一つです。

●参加車両例 ホンダCBR1000RR ヤマハ YZF-R6 ヤマハ FZR400 スズキ RGV250γ カワサキ ZZR1100 等



今年最後の“ファンラン”は年に1度の「Full Course Special」 ダブルエントリーのライダーも多く、大いに盛り上がる大会に

鈴鹿サーキットにおける今シーズン初の2輪レースとして、「FUN & RUN! 2-Wheels(通称“ファンラン”)」の開幕戦が行われたのは4月6日(土)のこと。その後2回が開催され、今回の「Full Course Special」が今シーズン最後の大会となった。

通常は東コースが使われる“ファンラン”がフルコースを舞台に行われるのは年に一度だけ。「フルコースを走りたい」という要望は普段から多いだけに、今回はいつも以上に多くの参戦台数を集めた。午前中は“ファンラン”に由来するナンバー付き車両によるタイムアタック競技「ROAD STAR」に参戦するライダーのフリー走行が行われた後、同じくナンバー付き車両によるレース競技「ROAD STAR WARS」と昨今の“ファンラン”でもっとも高い人気を誇る「NEO STANDARD」の公式予選が行われた。「最終ラウンドだから少しでも上のグリッドからスタートしたい」という思いが強いライダーが多かったのか、これらのセッションは何度もトップタイムが塗り替えられる展開に。「ROAD STAR WARS I」および「ROAD STAR WARS II」では従来のコースレコードが更新された。

昼のインターバルを挟み、「ROAD STAR」のタイムアタックへ。その後には「ROAD STAR WARS」と「NEO STANDARD」のレースが行われた。「ROAD STAR WARS II」ではファイナルラップの最終コーナー立ち上がりまでテールtoノーズのバトルが披露された。また、「NEO STANDARD」では激しいバトルの末、それぞれのカテゴリーのシリーズチャンピオンが決まった。「NEO STANDARD」には昨シーズンからBMW G310Rクラスが新設され、さらに盛り上がりを見せている。ストリートファイター然したネイキッドスタイルのこのマシンは大会ごとに参戦台数が増え、この何戦かはCBR250RやVTR250と熾烈なバトルが披露しているが、今回はこのG310Rクラスのマシンがトップチェッカーを受けるなど、主役とも言える存在に成長した。

今回は「ROAD STAR」と「ROAD STAR WARS」、あるいは「NEO STANDARD」の<CBR250R/VTR250/G310R>と<Ninja250R/YZF-R25>にダブルエントリーするライダーも多かった。さらに、翌日9月8日(日)に行われたMini-Moto 4耐に参戦するライダーもいた。盛況だったこのレースを最後に今シーズンの“ファンラン”が全て終了した。



ROAD STAR WARS II 決勝スタート前

ROAD STAR I / ROAD STAR CHALLENGER I / ROAD STAR EXPERT I

ROAD STAR Iでは松永修がアタック開始早々に2分19秒936をマーク。松永は周回ごとに自己ベストを更新すると4周目終了時点でピットに入る。それに続くのは内田洋一。3周目に2分21秒839をマークした内田も4周目終了時点でピットイン。結局、唯一2分20秒を切った松永の2分19秒498がROAD STAR CHALLENGER I / ROAD STAR I / ROAD STAR EXPERT Iの総合トップタイムとなった。



ROAD STAR CHALLENGER I 総合表彰式
(優勝:渡邊昭弘、2位:杉浦康寛)



ROAD STAR I 総合表彰式
(優勝:中谷亜加音、2位:津田弘章、3位:前田忠司)



ROAD STAR EXPERT I 総合表彰式
(優勝:松永修、2位:内田洋一、3位:藤田翔斗)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 4

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Fall Course Special

ROAD STAR // ROAD STAR WARS //
NEO STANDARD < Ninja250R/YZF-R25 > , < CBR250R/VTR250/G310R >

7 Sat. September

レースレポート-2【タイムアタック形式競技】

ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT II

ROAD STAR II / ROAD STAR EXPERT IIでは、まず安富成士が2分32秒451をマーク。安富は2分32秒416をマークして自己ベストを更新するが、太田黒健二がそれを上回る2分32秒156をマーク。その後も太田黒は自己ベストを更新し続け、最終的に2分30秒701をマーク。3年前に自身がマークした2分30秒997というタイムを塗り替えた太田黒がROAD STAR IIのウィナーに。ROAD STAR EXPERT IIのトップタイムは安富の2分32秒416だった。



ROAD STAR II 総合表彰式
(優勝:太田黒健二、2位:芝井賢一)



ROAD STAR EXPERT II 表彰式
(優勝:安富成士、2位:大竹洋司、3位:松田真一)

ROAD STAR WARS I

ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの香川純。それに4番グリッドスタートの藤田翔斗、ポールポジションスタートの松永修と続く。シケインの進入で香川をパスした藤田、香川、松永のオーダーでオープニングラップを終了すると、2周目のヘアピン進入では松永も香川をパス。その間に藤田が後続を引き離しにかかるが、松永が再び藤田に接近していく。3周目にその藤田が単独で転倒。これにより松永にとって有利な展開に。香川と中川祐司も単独2位、単独3位となる。終盤になると中川が香川の背後に徐々に接近するが、パスするには至らない。結局、松永が2位以降に8秒702ものアドバンテージを築いて堂々のトップチェッカーを受けた。



ROAD STAR WARS I 総合表彰式
(優勝:松永修、2位:中川祐司、3位:清水義之)

ROAD STAR WARS II

2番グリッドスタートの太田黒健二が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。その背後にポールポジションスタートの川口篤史が続く。太田黒と川口はオープニングラップからテールtoノーズのバトルを展開。スプーンカーブの進入で川口が太田黒をパスすると、川口、太田黒のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。太田黒は4周目のメインストレートで川口に並ぶと、続く1コーナーでこれをパス。その背後では7番グリッドスタートの松田真一と3番グリッドスタートの大竹洋司が激しいバトルを展開する。川口、太田黒のオーダーでファイナルラップへと突入していくが、そのオーダーのままチェッカーを受けることとなった。



ROAD STAR WARS II 総合表彰式
(優勝:川口篤史、2位:太田黒健二、3位:松田真一)



2019 FUN&RUN! 2-WHEELS 4

IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE

Fall Course Special

ROAD STAR // ROAD STAR WARS //
NEO STANDARD < Ninja250R/YZF-R25 > , < CBR250R/VTR250/G310R >

7 Sat. September

レースレポート-4 [レース形式競技]

NEO STANDARD <Ninja250R/YZF-R25>

福井宏至／鈴木克正組の福井、杉島潤が横並びの状態
で1コーナーへ。ホールショットを奪った福井が杉島とテール
toノーズの状態となるが、シケインで杉島が転倒。これによ
り福井が単独トップとなる。前回レースでYZF-R25クラス
2位入賞を果たしたため、14番グリッドからのスタートとな
った松浦光利がそれに続く2位でオープニングラップを終了
。前回のYZF-R25クラスウィナー鳥居典生が2周目にその松
浦をパス。福井、鳥居、松浦のオーダーとなる。5周目のシケ
インで松浦が転倒。さらにトップを走る福井のマシンが6周
目にスローダウン。これにより鳥居が単独トップに。前回の
Ninja250Rクラスウィナーである山本晃久は最後尾スター
トながら7周目終了時点で2位まで浮上する。10周目終了時
点で鳥居がピットイン。11周目終了時点で山本もピットに
入る。結局、鳥居がトップチェッカーを受けると同時にYZF-
R25クラスのウィナーに。Ninja250Rクラスを制したのは
総合2位の山本だった。



NEO STANDARDカテゴリー別表彰式(Ninja250R)
(優勝:山本晃久、2位:花田定夫、3位:廣瀬直人)



NEO STANDARDカテゴリー別表彰式(YZF-R25)
(優勝:鳥居典生、2位:松浦光利、3位:澤井辰彦)

NEO STANDARD < CBR250R / VTR250 / G310R >

オープニングラップをトップで帰ってきたのはボールポジションからスタートした福井宏至／鈴木克正組の福井。前回レースでG310Rクラス2位入賞を果たしたため、21番グリッドからのスタートとなった佐々木龍人がそれに続く2位まで順位を上げてオープニングラップを終える。佐々木は3周目のメインストレートで福井に並ぶと、1コーナー進入でこれをパス。その2台はその後もテールtoノーズのバトルを続ける。9周目のシケインで福井が佐々木をパスして再びトップに。10周目終了時点で福井がピットに入ると、鈴木にライダーチェンジ。鈴木は佐々木に続く暫定2位でコースに復帰する。佐々木は12周目終了時点でピットインし、トップのままコースに。結局、佐々木がトップチェッカーを受けると同時にG310Rクラスのウィナーに輝いた。CBR250Rクラスを制したのは総合2位チェッカーを受けた福井／鈴木組。総合5位の樋口圭祐がVTR250クラスのウィナーとなった。



NEO STANDARDカテゴリー別表彰式 (CBR250R)
(優勝:福井宏至 / 鈴木克正、2位:原田悠平 / 有吉輝芳、3位:花田定夫)



NEO STANDARDカテゴリー別表彰式 (VTR250)
(優勝:樋口圭祐、2位:上平真、3位:高橋潤)



NEO STANDARDカテゴリー別表彰式 (G310R)
(優勝:佐々木龍人、2位:松浦光利 / 早野蔵、3位:谷島友和)